

宅扱

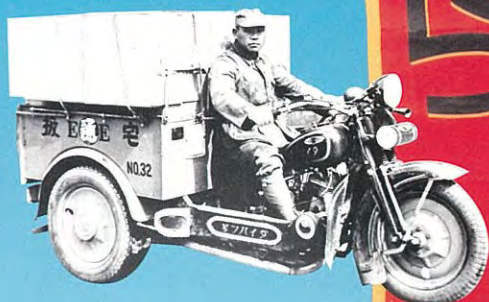
たくあつかい

昭和はじめの宅配便

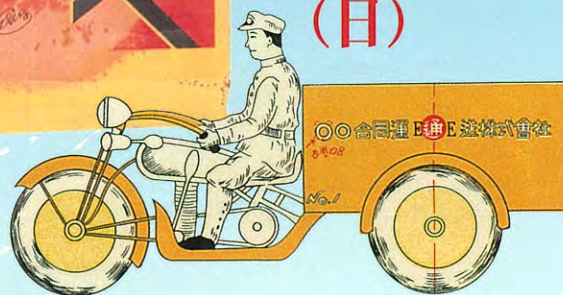
平成15年4月26日(土)～6月15日(日)



東京鉄道局



交通博物館提供



開館時間 午前10時～午後5時(入館は4時30分まで)
 休館日 毎週月曜日・4月30日(水)・5月6日(火)・5月27日(火)
 観覧料 大人 200(100)円 小中学生 100(50)円
 ※()内は20名以上の団体料金 小中学生は土曜日無料
 上記の料金で常設の「現代の物流」展示室もご覧頂けます。

物流博物館へのアクセス

◆電車：品川駅(JR・京浜急行)下車…徒歩7分
 高輪台駅(都営浅草線)下車…徒歩6分
 ◆バス：品川駅高輪口バス乗り場3番 都営バス品93乗車(目黒駅方面行)
 新高輪プリンスホテル前 下車…徒歩1分

物流博物館

企画展 宅扱 昭和はじめの宅配便

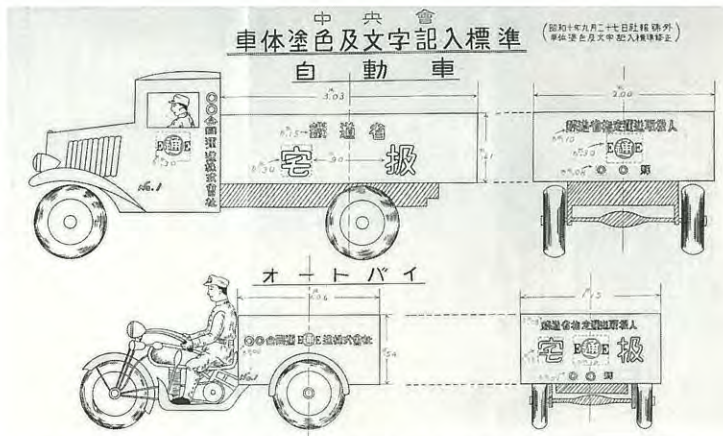
今日ではあまり知られていませんが、昭和のはじめ頃、「電話1本で荷物を取りに来る」をうたい文句に、家庭や商店・会社からの貨物を戸口から戸口へ配達する宅扱という制度が鉄道省によって行われていました。宅扱は、それまでの鉄道による貨物輸送と違い、ドア・ツー・ドアで配達し、わかりやすい運賃・スピード輸送を実現し、宅扱という商品名を採用するなど、今日の宅配便によく似た特徴を持つ制度でした。また、荷物を獲得するため宣伝隊やアドバルーンなどを用いて、幅広く世間一般にPRする一方で、当時鉄道省が進めていた「小運送合同」という運輸政策と深く関わる制度でもありました。展示では、宅扱のパフレット、写真などを通じて、昭和戦前期の輸送事情を紹介します。



宅扱の荷物を受取る
昭和10年(1935)頃
宅扱パンフレットより



宅扱の標語 昭和11年(1936)



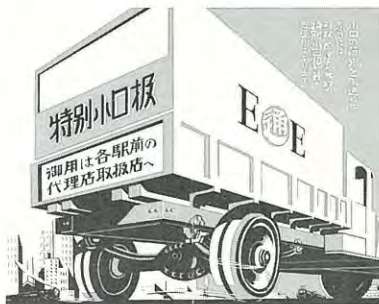
宅扱トラック・オート三輪の車体色 昭和11年(1936)
宣伝のため車体色はオレンジイエローに制定された。この色は現在の日本通運(株)のトラックの色に引き継がれている。



宅扱のパフレット 昭和10年(1935)頃



宅扱集配用トラック 昭和10年(1935)頃



特別小口扱のパフレット
昭和初期
宅扱は当初「特別小口扱」といい、昭和10年に懸賞募集して「宅扱」と改称した。



宅扱専用の貨車への積み込み 昭和12年(1937)頃 交通博物館提供
この貨車にはオレンジイエローの太い横帯に二本の赤線が引かれ、宣伝に一役買った。



宅扱宣伝風景 門司駅にて 昭和11年(1936)